鹿児島市立桜丘中学校
令和６年１月２２日

第 10 号

「前向きに進む一年」

校長　上久保大介

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、正月と言えば家族や親族が集まって楽しいひとときを過ごすのが、楽しみのひとつですが、今年はそういうわけにはいきませんでした。元日に発生した能登半島地震により、お祝いムードは一変し、お正月気分は一気に無くなりました。その被害は大きく、今なお厳しい生活を強いられている方々がたくさんいらっしゃいます。亡くなられた方も多く、未だに安否不明の方もいらっしゃいます。心よりお見舞いを申し上げます。

また、この地震への対応のさ中、１月２日には羽田空港で航空機同士の衝突事故が発生し、２日連続で起こった災害と事故で日本中が大騒ぎとなりました。新年早々、突然日常を奪われることになってしまった悲しさ、つらさ、やるせなさに、人間の無力さを思い知らされました。

しかし、そのような究極の状態の中でも、被災地や被災者、乗客を救おうとする自衛隊やＪＡＬの乗務員の姿には、大きな感銘を受けずにはいられませんでした。自衛隊はがれきなどの撤去、安否不明者の捜索、道路が寸断された地域への徒歩による支援物資の運搬など、一般の人ではできないような救助活動を行っています。ＪＡＬの乗務員は炎が迫っている中、究極の選択と対応により一人の犠牲者を出すことなく、全員を救うことができました。驚くべきことに、この航空機に搭乗していたＣＡの約半数が'23年春に入社したばかりの新人だったそうです。どちらの場合も体力的・精神的に追い込まれるほどの、究極を想定した厳しい訓練の積み重ねの結果だったそうです。

遠く離れた場所にいる私たちですが、これらの災害、事故、救出のニュースに「かわいそうね」「すごいね」と言うだけでは、いけないのではないかと思います。日常的な備えと現実を想定した真剣な取り組みこそが、自分や周りの人たちを守ることになるという教えであるように思うのです。

中学生の人生はこれからです。勉強にしても、スポーツにしても、行事にしても、本番を想定した真剣な取組こそが、自らの未来を切り拓く唯一の方法であるということを学んでほしいと思います。

新しい一年が始まりました。とにかく前向きに進んで行きましょう。